

中部大学 自己点検・評価だより Self Evaluation Newsletter

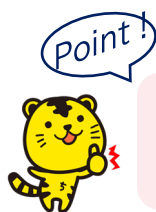


第4号

2023年度 自己点検・評価の結果における Good Practice (ピアレビューを通して)

国際関係学部 基準5 学生の受け入れ

学科のアドミッションポリシーに言及しつつ学科独自のポートフォリオ入試方法について説明する、国際学科独自の「ポートフォリオ入試」説明書を作成している。



「求める人間像」と入試との関連性を「学科から受験生へのメッセージ」として明確に示しています。

応用生物学部 基準7 学生支援

入学前教育及び1・2年生を対象とした化学の補習を実施することを通じて、高等学校までの学生の学習差や能力に応じた補習教育、補充教育が行われている。



入学した学生を「誰一人取り残さない」という温かい姿勢が伺える、大変心強い取り組みです。

人文学部 基準2 内部質保証

学科間相互レビューを2020年度に実施した点は、外部評価を受ける機会がない学科では内部保証システムの有効な機能として代用でき、他学部においても参考になるものと考えられる。



学科の「強み」を見出し、学部そして全学に展開していく上で、客観的な相互評価は大変効果的です。

応用生物学研究科 基準5 学生の受け入れ

大学院進学をした学生が将来どのような仕事に就くのかイメージしやすいように、1年間に2回開催されている大学院研究中間報告会において、修了生に講演をしてもらい、学生達の進学意欲の向上を図っている。



大学院における研究活動と修了後のキャリアを連続して捉えることができる、学生にとって魅力的なプログラムです。

国際人間学研究科 基準4 教育課程・学習成果

院生の研究報告会「院生の力」を研究科全体で開催しており、その際に院生の発表に対して指導教員を含む研究科の教員がコメントする機会を設けることにより、専攻を越えて教員間で指導状況と研究の進捗状況を共有している。この企画は、毎回少人数での発表であり十分に質疑応答ができ、教育における組織的な対応となっている。



研究の進め方について、大学院生が「研究の先輩」である複数の教員から示唆を得る、貴重なコミュニケーションの「場」となっています。

事務・研究組織 (D群)

基準11 研究推進・管理運営

業務の持続性の確保に向けて、課として業務のマニュアル化を進めている。(総務課)

業務一覧により、業務分担が明確になっており、業務量、重要度等のレベルが数値化され業務の平準化が図られている。(財務課)

年間業務一覧により、各担当者の業務分担が明確になっており、各業務の詳細スケジュールが明記され進捗管理が適切に行われている。(応用生物学部事務室)



各メンバーが自らの能力を最大限に発揮し、さらなる改善・向上を推進するためには適切な進捗管理と相互理解が大前提となります。

2023年度 自己点検・評価の結果はこちら→



外部評価結果概要

前号で実施についてご報告した外部評価の結果をお知らせします。

評価項目	3つのポリシーを踏まえた取組みの適切性、内部質保証、教育課程・学習成果、学生の受け入れ、学生支援
評価結果概要	<p>【長所・特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己点検・評価、ピアレビュー実施体制の整備 独自項目の設定による「学びに関する調査」継続実施 推薦入試への適性検査導入 学生支援にかかる諸制度の充実 <p>【課題事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3つのポリシーの定期的・継続的な見直しを担当する常設の機関・委員会等の明示 主要な学内委員会と内部質保証推進委員会との連携強化 シラバス記載内容（「授業外学習」等）の統一感確保 シラバス第三者点検のチェック体制強化 小・中学生および保護者も視野に入れた「行きたい大学」としての意識付け 「学びに関する調査」に基づく改善結果のフィードバック充実

評価員、実施期間は前号で確認できるよ



この結果を内部質保証推進委員会で精査し、自己点検・評価結果も踏まえた「全学的課題」を策定すると共に、大学執行部の主導により、個々の課題事項に対応していくこととなりました。

認証評価の基本の「き」

大学や学部を設置するときクリアした基準がその後守られているか、教育研究が適切に行われているかを大学自らチェックし改善につなげるよう自己点検・評価を努力義務化したのが1991年、世にいう大学設置基準の大綱化です。その後1999年に自己点検・評価が義務化されます。さらに2004年、第三者によって検証することを義務付けたのが認証評価制度です。

大学・短期大学・高等専門学校が受審する「機関別認証評価」は7年以内ごとに1度の受審が義務付けられています。

認証評価を請け負う第三者は文部科学大臣が認証します。それぞれ特徴があり、受審側がどの評価機関で受審するかを選んで申請します。

〈主な評価機関〉

認証評価機関名称	主な受審機関
(公財)大学基準協会	大規模私立大学
(独法)大学改革支援・学位授与機構	国立大学
(公財)日本高等教育評価機構	私立大学

私立大学の認証評価制度は2004年から2010年の7年間を第1期とし、以降2011～2017年が第2期、2018～2024年が第3期、そして2025～2031年を第4期と呼びます。本学は2007年に第1期、2014年に第2期を日本高等教育評価機構で、2020年に第3期を大学基準協会を受審しました。第4期は2027年に前回に引き続き大学基準協会を受審する予定です。

用語の解説



教学マネジメント

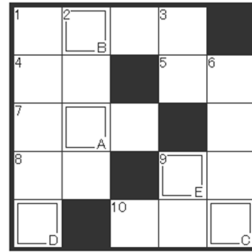
「教学マネジメント」は、教育のプロセスを円滑に進めるために大学が行う管理運営（計画、実行、点検・評価、改善）の活動です。

2023年度の全学的課題の一つが「学長のリーダーシップによる教学マネジメント体制の構築」。教学マネジメント体制の確立に当たって最も重視される『学修者本位の教育の実現』を目指して、「大学全体レベル」「学部・学科レベル」「授業科目レベル」のそれぞれでPDCAを回して教育改善に取り組む体制づくりをすすめています。

教育の質保証のために、自ら定めた指針（3つのポリシー等）に則り、大学の諸活動を点検・評価し、その結果を基に改革・改善を行う軸になるのが「教学マネジメント」。大学をより良くする原動力です。



★大学評価クロスワードパズル★



第3号の答えは「メタバース」でした。

答え

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

カナではなく、英字で埋めてください。

☆☆☆ タテのカギ ☆☆☆

【1】	手品。
【2】	「エビデンスに基づく政策立案」の略語。
【3】	ティーチングアシスタントの略語。
【6】	1人1台の情報端末を全国の小学校と中学校に配備し、学校において新しい学びの形を実現するための構想。「○○○○スクール構想」。
【9】	As opposed to she.

☆☆☆ ヨコのカギ ☆☆☆

【1】	文部科学省の英語表記の略称。
【4】	血液型のひとつ。「○○型」。
【5】	Elemental symbol for silver.
【7】	生成AIのひとつ。「Chat○○○」。
【8】	インスタントメッセージの略語。
【9】	Elemental symbol for mercury.
【10】	A drink made from leaves and water.

認証評価を知り尽くそう！

文部科学省 認証評価制度のページへ



発行日 2024年 2月26日

発行 大学企画室 大学評価推進部

内線 2381・2382 (大学企画部 大学評価事務課)

E-mail hyoka@office.chubu.ac.jp

第4号

